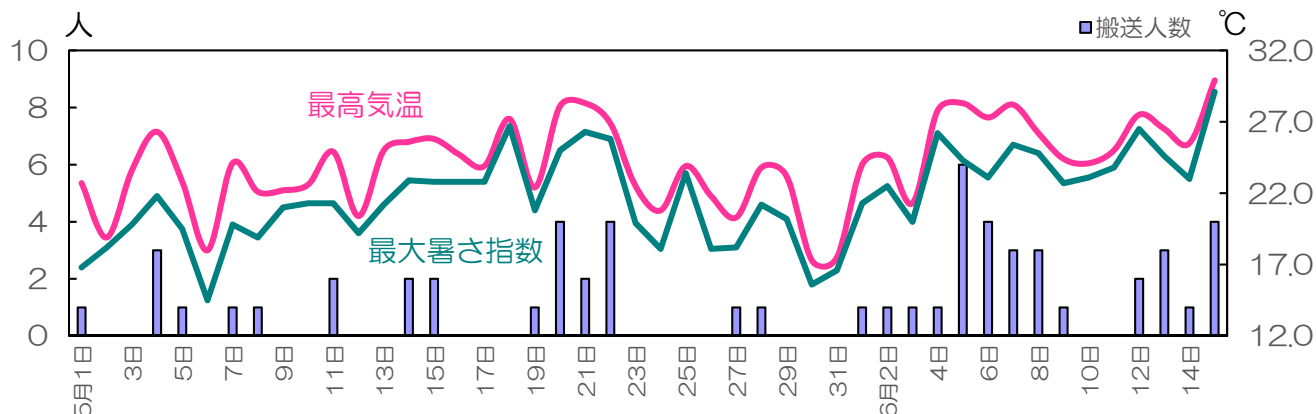


熱中症情報

<搬送数>

令和7年5月1日～6月15日までの搬送数（消防局データを使用）は、計57人（5月26人・6月31人）でした。6月5日は、搬送数が6人/日と、期間内で最多を記録しました。6月5日は、最高気温が28.3℃で、夏日でした。



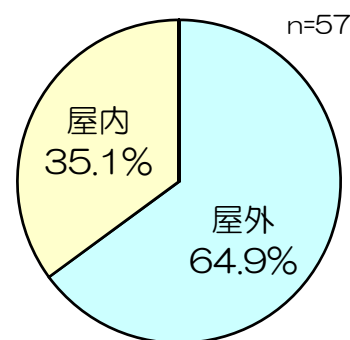
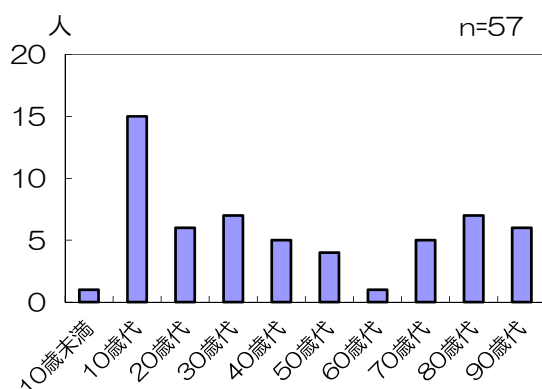
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

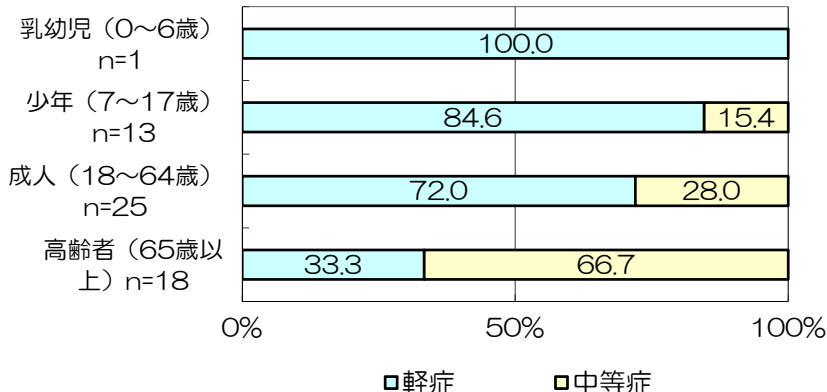
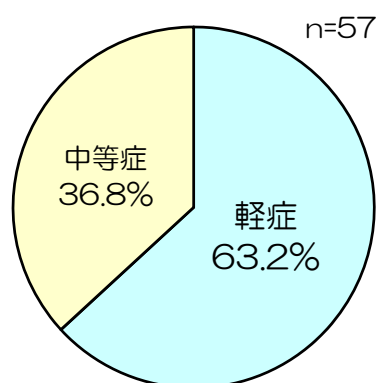
10歳代が15人（26.3%）で最も多く、

<発生場所> 屋外64.9%、屋内35.1%で、次が30・80歳代で各々7人（12.3%）でした。



<重症度*>

軽症63.2%、中等症36.8%でした。スポーツ（部活動等）中や終了後、屋外作業で起きていました。高齢者で中等症の割合が66.7%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。